

平成19年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告

(1) 事業の概要

平成19年度は、指定管理者制度と利用料金制度の効用を活用した施設管理、政令指定都市への移行を記念した事業の展開、公益法人会計の改正（平成16年10月14日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会申合せ）に則した新会計基準の徹底を行う年度でした。特に、会計基準の徹底につきましては、監査法人による外部監査を導入することにより、随時公認会計士の指導を受け、財団運営の透明性をさらに確保いたしました。

事業面では、NPO法人との協働によるコンサートの開催、北遠地域の活性化事業やアウトリーチ活動等、新たな試みを自主事業、共催事業として展開するとともに、第6回浜松国際ピアノコンクールの優勝者ツアーや「浜松世界青少年合唱祭'07」、「第6回浜松市民オペララ・ボエム」といった大型事業を運営することにより、「音楽のまち・浜松」を世界に発信いたしました。また、インターネットの活用においては、財団のホームページを運営するだけでなく、浜松市や民間企業・団体とともにポータルサイト「はまかるドットネット」を開設しました。これにより財団の自主事業だけでなく、周辺地域の文化イベント情報や文化団体の紹介などをより効果的に発信できるようになりました。

浜松市楽器博物館、浜松科学館、木下恵介記念館等所管施設の附帯事業におきましては、移動博物館や上映会などを広域的に開催することにより、市域全体の文化向上に貢献するとともに、所管施設への誘客にもつなげております。また、政令指定都市となった浜松をコンベンション都市としてさらに国内外にアピールするため、ランドマークであるアクトシティ浜松へのコンベンション誘致活動を強化いたしました。財団法人浜松観光コンベンションビューローやオークラホテルグループとの連携を密にするとともに、都市圏の学術会議事務局や近隣地域の商工会議所などへのセールス活動を活発に展開いたしました。

所管施設の管理におきましては、浜松市内の公共施設11施設の指定管理を行いました。浜松市から受けた指定管理料は合わせて1,667,686千円、利用料金収入（利用料金制度導入は7施設）は合わせて783,461千円でした。

利用者数につきましては、多彩な附帯事業を取り入れた浜松こども館が入場者数を大幅に伸ばし、目標としていた21万人を超えました。また、リニューアル後の展示が好評を博している浜松市楽器博物館も引き続き好調に推移しております。

なお、財団法人浜松市浜北振興公社の解散に伴い、浜松市浜北文化センター、浜松市森岡

の家、浜松市なゆた・浜北の3施設について事業継承を行い、順調に指定管理を行っております。

ア 芸術文化活動の企画、運営及び提供

平成19年度は、例年の事業展開に加え、アウトリーチ活動やNPO法人と共催で市民参加型事業を開催するなど、新たな取り組みを行いました。

コンサートでは、「須川展也&東京佼成ウインドオーケストラ」や「マリス・ヤンソンス指揮 バイエルン放送交響楽団」を開催し、トップレベルの演奏で観客を魅了しました。オペラでは、イタリア・スポレート歌劇場「セビリアの理髪師」、プラハ国立劇場「魔笛」の2公演を、リサイタルでは「ミート・ザ・クラシック 高嶋ちさ子コンサート」、「辻井伸行ピアノリサイタル」のほか、クリスマスには「アンサンブル・プラネタ クリスマスコンサート」を開催しました。

また、毎年恒例の松竹大歌舞伎公演では、中村吉右衛門が「仮名手本忠臣蔵」を熱演。ファミリー向けの「おかあさんといっしょ『ぐ〜チョコランタンがやってきた!!』」、「ブロードウェイミュージカル『フログとトード』」とともに、多くの方々に楽しんでいただきました。

その他、映画とオーケストラ演奏を組み合わせた「京都市交響楽団 オーケストラ・ライブ・シネマ チャップリン『街の灯』」や世界一流のアスリートによるダンス・エンターテインメント「FLOOR PLAY」、プロ奏者と市民が一体となって舞台を創り上げる「Ryujin ～龍神～」や市内福祉団体と協力開催した「北田康広ハートフルコンサート」など、新しい企画も好評を博しました。

イ 芸術文化活動の支援及び交流の促進

市民文化団体と連携して「浜松市民文化フェスティバル」や「浜松市芸術祭はままつ演劇・人形劇フェスティバル」を開催するとともに、市民や団体が実施する芸術文化事業への助成金による支援、財団の事業に協力するボランティアスタッフの募集・育成を行いました。

また、北遠地域の音楽の活性化を図るため「宮川彬良&アンサンブルベガコンサート」を天竜壬生ホールで、地元ブラスバンドのクリニックやロビーワークショップを交えて開催し、地域住民との触れ合いの場を提供したほか、新たに企画開催した吹奏楽作曲事業「バンド維新」では、服部克久、三枝成彰等の著名な作曲家による吹奏楽のための委嘱新作を地元中学・高校の吹奏楽部が「全曲世界初演」するとともに、作曲家自身を招いての公開レクチャー・

練習を行いました。こうした活動が、バンドジャーナル等の雑誌やマスコミにも今までにない企画として多数取り上げられ、全国へ浜松をPRすることができました。

このほか「浜松市政令指定都市移行記念浜松能」「日本吹奏楽指導者クリニック」などを開催いたしました。

ウ 文化振興を担う人材の育成

「ジュニアオーケストラ浜松」及び「ジュニアクワイア浜松」の運営を通じて、将来を担う子供たちの育成を図りました。定期演奏会だけでなく、ジュニアオーケストラ浜松が新潟で開催された「ジュニアオーケストラ・フェスティバル2007 in NIIGATA」に参加したり、ジュニアクワイア浜松がプラタナスコンサートにゲスト出演したりするなど、市民や市内外の他団体とも交流も深めました。

また、アクトシティ音楽院事業では、世界で活躍する音楽家の養成を目指す「アカデミーコース（3事業）」から市民レベルの音楽文化の担い手を育てる「コミュニティコース（11事業）」まで幅広く人材の育成を行いました。

エ 芸術文化に関する調査研究及び情報提供

財団の主催事業を中心に年間約100公演の優先予約販売を取り扱う有料会員組織であるアクトシティ浜松友の会『ビバーチェクラブ』には約6,300名が登録され、主にアクトシティで開催される芸術文化事業を支える組織として認知されています。

また、浜松市及び民間協力事業者と協働で、浜松市芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」を3月にオープンしました。「はまかるドットネット」では、主に市内で開催される芸術文化活動の告知媒体としての機能のほか、市内で活動する文化団体に関する情報、浜松で活動したいアーティストの情報、浜松市内の文化施設の情報など、芸術文化に関する情報交流の拠点サイトとして充実を図ってまいります。

オ 地域社会の活性化に資する事業

5月の浜松まつりに合わせた「アクトでやらまいか！ 浜松まつり」、8月の「納涼まつり」では、アクトシティ活性化委員会の一員として浜松の特徴を生かした企画の提案と運営に関わり、アクトシティでの賑わいを創出しました。地元企業の世界の縁日への出店参加や周辺地域の様々な郷土伝統芸能、市民アート展覧会、はっぴ野郎コンテストなどの実施により、

地域文化のアピールと共に、地域社会の活性化を図りました。

また、平成18年度から引き続き、アクトシティの施設全体の有効活用による周辺地域の活性化を図るため、近隣の商工会議所や医療機関など各種団体をはじめ、関東・関西・名古屋エリアの学会事務局や企業などを訪ね、アクトシティのPR活動を実施いたしました。

カ 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力

第6回浜松国際ピアノコンクールの優勝者アレクセイ・ゴルラッチ(ウクライナ)によるツアーを国内8公演、海外1公演で開催いたしました。国内公演については、各会場において8割以上の入場者があり、海外公演ではカーネギーホールで行った演奏会の模様がニューヨークタイムズ紙に記事掲載されて好評を博すなど、コンクールのPRについても成果がありました。

また、第12回浜松吹奏楽大会や政令指定都市移行・市制施行96周年記念式典、パイプオルガンミニコンサートなどの恒例となった芸術文化事業のほか、市や関係機関と協力して「浜松世界青少年合唱祭'07」、「第6回浜松市民オペラ ラ・ボエーム」といった大型事業を開催し、芸術文化の振興に寄与いたしました。

キ 公の施設の管理運営及び附帯事業

(ア) アクトシティ浜松

浜松国際ピアノコンクール等の開催があった平成18年度と比較すると稼働率はやや下がり、駐車場料金の値下げもあって収入は減額となりました。今後も積極的な営業活動を行い、稼働率の向上を目指します。

設備管理面では、照明の効率的な運用や電球・器具の省エネタイプへの取り替え等により光熱水費の削減で成果が得られました。省エネルギー推進においても官民共同事業体であるアクトタワー管理会社と協力し、民間部分を含むアクトシティ全体で契約をしている電気料金の基本料金の値下げも実現し、共有設備の保守契約等の見直しにより管理委託費も削減しました。

(イ) 浜松市楽器博物館

リニューアル後1年目であった前年度を上回り、かつ開館以来2番目に多い入館者数を達成いたしました。常設展示のリニューアル効果の現れと、ロコミやマスコミ等への露出により博物館の存在がますます知られるようになった結果であると考えられます。

附帯事業においては、静岡文化芸術大学との共同企画による特別レクチャーコンサート(「クララ

&ロベルト・シューマン 愛、輝きと優しさ)開催や、兵庫県伊丹市アイフォニックホールの協力による外国人民族音楽アーティストの招聘(レクチャーコンサート「シルクロードの音世界」)、国立民族学博物館の協力による企画展の開催など、教育研究機関との連携を深めました。

政令指定都市移行記念として開催した18世紀の名器ブランシェ・チェンバロによるレクチャーコンサートは、NHKテレビ衛星放送による収録で全国放映され、博物館の収蔵資料の質の高さと有意義な活用の様子を社会にアピールできました。

(ウ) クリエイト浜松 (文化コミュニティセンター及び中部公民館)

クリエート浜松(文化コミュニティセンター・中部公民館)の利用状況におきましては、前年度に比較して利用件数、利用者数、利用率ともに減少した施設がありましたが、利用料金収入は約 8 万円の増額となっております。この要因としては、セミナーなどに利用する企業や団体が増えたことにより、営利加算するケースが多くなったことが考えられます。

中部公民館事業については、「浜松ヒューマンセミナー」や「地域子ども育成事業」、「救急蘇生講座」といった青少年健全育成事業などを実施し、地域住民の交流と向学の場として好評を得ました。

また、生涯学習情報コーナー事業として、市内の生涯学習情報を収集し、市民に提供しました。

(エ) 浜松科学館

プラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」が、若いカップルや御年配の方たちに口コミで広まり、今までとは違った客層にプラネタリウムを楽しんでいただくことができました。

また、特別展「むし虫ワールド」については、園児・小学生を持つ親子連れをターゲットに「昆虫ツアー」や「カブトムシ王座決定戦」などのイベントを随所に織り交ぜることにより、57,164名をお迎えすることができました。

さらに、科学館主催の最大イベント「第12回おや!なぜ?横丁」では、ものづくりのまち「浜松」を代表する企業、それを支える大学、高校、ボランティア等が43のブースを出展し、延べ7,687名の方に科学のおもしろさ、ものづくりの楽しさを味わっていただきました。

(オ) 浜松こども館

平成19年度は、目標である21万人を1万7千人強超える、227,475人の入館者数を得ることができました。平日午前の主な来館者である乳児と保護者を対象とした事業「はじめてのことばあそび」、「ハイハイくらぶ」、「トコトコくらぶ」などの充実と、平日午後の新規事業として

「やさしいヨーガ」を開設し、妊娠中の方々へも声をかけたことなどが入館者増につながったと考えられます。

また、この環境をつくるためには、ボランティアの皆さんの活動は欠かせませんでした。日常的な遊びの場として、フロアでのコマ回しや竹馬乗りなどの昔遊びを通しての関わりは、子どもを遊びに熱中させてくれました。また、平日のゆったりした時間に、保護者に優しい声かけを行ってくれたことが、こども館をより安心できる場所にしてくれました。

(カ) 浜松文芸館

平成 19 年度の附帯事業の中の展示事業は、特別展「浜松が生んだ望郷の作詞家・清水みのる」展、「浜松百撰・50 年の歴史」展と、企画展「あのこと・日常を綴った『子ども文集』とこどもたちを見つめた『PTA 広報誌』から」展を開催しました。どれも好評でしたが、中でも「清水みのる」展は、ぐるっとパスの効果もあって最近にない観覧者増となりました。また、講座事業には毎回募集人数を超える希望者があり、参加延べ人数は、1,552 人でした。貸室業務については、講座室の稼働率、利用者数が向上しております。

本館の事業の一つである「浜松市民文芸」については、応募点数 2,645 作品、参加者は 674 人と少しずつ増加傾向にあります。しかし、若い年齢層からの参加者を増やすこと、広くなった市域全体から参加を呼びかけることなど、課題も残されています。

本館に足を運び、展示を観覧したり自主活動したりする利用者の数は、年間 14,000 人を超えています。

(キ) 木下恵介記念館

毎月 1 回の開催を続けています DVD 上映会は特に高齢者層を中心に次第に固定客が増え、定着の方向にあると考えられます。また、この上映会は「木下恵介映画を愛する会」のボランティア活動によって運営が支えられています。

出前ビデオ上映会は上映公民館等との日程調整をし、湖南荘はじめ 10 回(10 会場)開催いたしました。

第 7 回木下恵介記念はままつ映画祭においては、デジタルリマスター版による「二十四の瞳」を TOHO シネマズで上映し、好評を得ました。また、同映画祭において、「陸軍」「カルメン故郷に帰る」「女の園」「新・喜びも悲しみも幾歳月」の 4 作品を、木下恵介記念館にて DVD 上映会として上映しました。

「二十四の瞳」に子役出演した人たちが作る「瞳の会」12名の方々が3月23日に来館したことも、地元新聞で紹介され、19年度の大きな話題になりました。

(ク) 浜松市天竜壬生ホール

開館して5年が経ち、経年劣化による修繕必要箇所が増えましたが、お客様のご迷惑にならないように、積極的に修理・修繕に努めました。

事業面では、北遠地域音楽活性化事業として「宮川彬良&アンサンブルベガコンサート」を開催し、コンサートだけでなく、地元ブラスバンドに対するクリニックやワークショップなどを行いました。また、財団グループ(浜松市文化振興財団及び株式会社日本シアタサービス)と浜松市との共催により「矢野沙織ジャズライブ 2008」を開催し、地元以外の浜松市民の方たちにも数多く足を運んでいただきました。

また、ホール利用のお客様の要望にお答えして、受付でのチケット受託販売を始めました。

(ケ) 浜松市浜北文化センター

浜松市浜北文化センター(浜北文化会館・中央公民館)の利用状況につきましては、前年度に比べて大ホールで1.9ポイント、小ホールで2.1ポイント稼働率が増加しています。浜松市の広域合併以降、旧浜北市以外の市民にも施設の情報が口コミ的に広がっていったことが増加原因となっております。今後とも稼働率の維持、向上に積極的に努めてまいります。

ホール事業につきましては、「中村雅俊コンサートツアー『AT LAST』」などを開催したほか、開館当初から継続している事業である「第77回浜北文化講演会」や「第25回浜北寄席」を開催し、市民の生涯学習の場、伝統芸能文化の鑑賞の場として大変好評を得ました。

(コ) 浜松市森岡の家

浜松市森岡の家の利用状況については、前年度に比べて稼働率、利用人数ともに減少しましたが、一般見学者の人数が98人増加しました。要因としては、新聞記事で施設紹介があったためと思われる。

(サ) 浜松市なゆた・浜北

平成19年度施設の利用状況につきましては、18年度と比較して利用人数の減少が顕著でした。これは、前年度にあった不特定多数を対象とした大規模な展示会等が、当年度にはなかったため

す。ただし、それにもかかわらず利用件数、利用率ともに若干ではありますが増加しており、施設の活用頻度は向上しています。

事業につきましては、「夏休み親子映画まつり」や「旅する絵本カーニバル」といった親子が一緒に楽しめる事業をはじめ、一般市民が誰でも参加できる「なゆたセミナー」や「ふるさと楽習」といった講演事業、「らくらくパソコン講座」や「なゆた・浜北料理講座」「ビーズアクセサリ創作体験講座」などの講座事業等多彩な事業を実施し、生涯学習の場として大変好評を得ました。

ク 埋蔵文化財の発掘及び調査

年度当初予定されていた遺跡の発掘及び調査のほか舞阪町天白遺跡等年度途中に追加受託したものを含め、16遺跡の発掘調査や整理作業、報告書の作成を行いました。

(2) 会議に関する事項

ア 理事会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第16号	19. 6. 11	平成18年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告及び収支決算について
第17号	19. 6. 11	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第18号	19. 6. 11	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第19号	19. 6. 11	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第1号	20. 3. 24	平成19年度財団法人浜松市文化振興財団補正予算について
第2号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団組織規程の一部改正について
第3号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団所管施設業務規程の一部改正について
第4号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第5号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第6号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団会計規程の一部改正について
第7号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団文書取扱規程の一部改正について
第8号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団資産運用規程の一部改正について
第9号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団運営委員会規程の廃止について
第10号	20. 3. 24	浜松科学館利用料金規程の一部改正について
第11号	20. 3. 24	平成20年度財団法人浜松市文化振興財団事業計画について
第12号	20. 3. 24	平成20年度財団法人浜松市文化振興財団予算について
第13号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第14号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団常務理事の互選について

イ 評議員会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第3号	19. 6. 11	財団法人浜松市文化振興財団理事の解任について
第4号	19. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第1号	20. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について

(3) 役員に関する事項

ア 役員（平成20年3月31日現在）

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	庄田 武	評議員	石村和清
副理事長	丹羽稔夫	評議員	鈴木富士男
常務理事	安井寿男	評議員	花井喜一
理事	御室健一郎	評議員	後藤 明
理事	伊藤修二	評議員	澤野幸廣
理事	河合弘隆	評議員	大澤照幸
理事	山内啓司	評議員	大石好孝
理事	鈴木敬彦	評議員	池町克徳
理事	山本博文	評議員	鈴木理久
理事	岡本弘美	評議員	川井孝啓
理事	片田聖子	評議員	横原 幸
理事	杉田 豊	評議員	高松良幸
理事	須藤京子	評議員	西田かほる
理事	飯田彰一	評議員	石田美枝子
監事	大石清美		
監事	鈴木不二		

イ 役員の変動

(ア) 就任

役職名	氏名	就任日	役職名	氏名	就任日
理事	庄田 武	19. 4. 1	評議員	石村和清	19. 4. 1
理事	丹羽稔夫	19. 4. 1	評議員	鈴木富士男	19. 4. 1
理事	安井寿男	19. 4. 1	評議員	花井喜一	19. 4. 1
理事	中山正邦	19. 4. 1	評議員	後藤 明	19. 4. 1
理事	伊藤修二	19. 4. 1	評議員	渡邊恒範	19. 4. 1
理事	河合弘隆	19. 4. 1	評議員	大澤照幸	19. 4. 1
理事	山内啓司	19. 4. 1	評議員	大石好孝	19. 4. 1
理事	鈴木敬彦	19. 4. 1	評議員	堀田千秋	19. 4. 1
理事	深澤正泰	19. 4. 1	評議員	仁科庄一	19. 4. 1
理事	小野弘子	19. 4. 1	評議員	川井孝啓	19. 4. 1
理事	片田聖子	19. 4. 1	評議員	小田木清種	19. 4. 1
理事	杉田 豊	19. 4. 1	評議員	高松良幸	19. 4. 1
理事	須藤京子	19. 4. 1	評議員	西田かほる	19. 4. 1
理事	田中佐智子	19. 4. 1	評議員	石田美枝子	19. 4. 1
理事	御室健一郎	19. 12. 21	評議員	池町克徳	19. 6. 11
理事	岡本弘美	19. 12. 21	評議員	澤野幸廣	19. 6. 11
理事	山本博文	19. 12. 21	評議員	横原 幸	20. 3. 24
理事	飯田彰一	19. 12. 21	評議員	鈴木理久	20. 3. 24
監事	大石清美	19. 4. 1			
監事	鈴木不二	19. 4. 1			

(イ) 辞任

役職名	氏名	辞任日	役職名	氏名	辞任日
理事	田中佐智子	19. 6. 11	評議員	堀田千秋	19. 6. 11
理事	中山正邦	19. 12. 21	評議員	渡邊恒範	19. 6. 11
理事	小野弘子	19. 12. 21	評議員	小田木清種	20. 3. 24
理事	深沢正泰	19. 12. 21	評議員	仁科庄一	20. 3. 24
理事	安井寿男	20. 3. 31			

(4) 職員に関する事項

区 分	人数()は兼務		備 考
	平成19年3月31日現在	平成20年3月31日現在	
総務部長	1	1	事務員1(うち浜松市職員1)
課長	(1)	(1)	総務部長兼任
主幹	1	2	事務員2
主任	3	3	事務員3
係員	5	4	事務員1 嘱託員3
事業部長	(1)	(1)	総務部長兼務
課長	2	2	事務員2(うち浜松市職員1)
主幹	2	1	事務員1
主任	6	6	事務員6
係員	16	16	事務員5 嘱託員11
アクトシティ浜松管理課長	1	1	事務員1(うち浜松市職員1)
主幹	1	1	事務員1
主任	4	3	事務員3
係員	9	8	事務員4 嘱託員4
楽器博物館長	1	1	事務員1
主幹	1	1	事務員1
係員	8	8	事務員1 嘱託員7
クリエート浜松館長	1	1	事務員1(うち浜松市職員1)
主幹	1	2	事務員2
係員	7	6	事務員1 嘱託員5
科学館館長	1	1	嘱託員1
主幹	2	2	事務員2(うち浜松市職員2)
主任	1	1	事務員1
係員	17	19	嘱託員19
こども館館長	1	1	嘱託員1
主幹	1	1	事務員1
主任	1	1	事務員1
係員	15	14	事務員2 嘱託員12
文芸館館長	1	1	嘱託員1
係員	2	2	嘱託員2

木下恵介記念館館長	1	1	嘱託員1
係員	1	1	嘱託員1
天竜壬生ホール館長	(1)	(1)	常務理事兼務
係員	1	1	嘱託員1
浜北文化センター、 兼森岡の家、 なゆた・浜北 館長	-	1	嘱託員1
係員	-	2	事務員2
計	115	116	
会計責任者	(1)	(1)	総務部長
出納員	(11)	(12)	課長及びアクトシティを除く館長